

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名: 大学院社会文化科学研究科

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	
1) 博士前期課程・後期課程の定員・専攻について志願動向等を見ながらの抜本的な見直し 2) O-NECUSによる受け入れ学生を中心とした国際協力プログラムの推進 3) 国際化に向けての学生の研修機会の拡大 4) 地域と連携しながら地域に貢献する人材育成のための教育システムの充実	<p>1) 平成24年度入試は、博士前期課程志願者132名、合格者69名であり、博士後期課程は志願者12名、合格者10名であった。昨年度は前期課程志願者150名、合格者85名であり、後期課程志願者18名、合格者11名であったから、博士前期課程、後期課程いずれも、志願者数、合格者数の漸減傾向が続いている。これに対応するため、前期課程を中心とする組織改革案を、26年度概算要求に向けて策定中である。改革案の基本的方向は、現在の4専攻18講座について、組織経営専攻を除く3専攻を1専攻とし、講座編成を基本的学問分野に再編することで、学際性総合性をより深化するとともに専門性を確保する一方、従来からある地域公共政策コースに加えて、学際性総合性を追求する二つのコースを開設することとし、また、前期課程後期課程5年一貫教育プログラムを設定するというものである。こうした組織改革により、専門性の掘り下げとともに幅広い学びを求めものや留学生の志願の掘り起こしを図ろうとしている。本年度は、改組計画の基本的枠組みを設定して、次年度以後、具体的なカリキュラム設計を進め、26年度に新しい組織の開設を目指すこととしている。</p> <p>2) 23年度は、O-NECUS(学生交流プログラム)に基づき、博士後期課程に特別聴講学生10名、双方向学位制度4名を受け入れ、大学間協定校及び部局間協定校から博士後期課程に、特別聴講学生1名、特別研究学生2名を受け入れた。</p> <p>3) 平成23年9月に、協定校である吉林大学(中国)での短期中国語研修を新たに実施した。教育効果を高めるため、研修前に説明・交流会を実施し、研修後に文集を編集した。平成23年11月に、留学帰国生を対象に留学後研修を行った。平成23年11月から、学生間で語学の交換教授を行うランゲージパートナー制度を立ち上げた。平成24年2月に、新たな協定の候補校として輔仁大学(台湾)を訪れ、協定校学生を対象とした語学研修制度について、情報収集と打ち合わせを行った。</p> <p>4) 地域公共政策コースにおいては、地方議会議員、地域公務員のリカレント教育を中心に地域に貢献する人材育成につとめている。22年度は入学者が1名という状況まで落ち込んだが、23年度は定員一杯の8名を受け入れることができた。またコースを卒業した県議員の尽力によって、超党派で岡山県議会に「岡山県議会地域公共政策セミナー」が設立され、コース担当の教員を中心に県議会で講演を行うこととなった。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	
②-1 目標	
1) 既存の研究プロジェクトの成果の発信と新たなプロジェクトの立ち上げ 2) 国際的な学術交流の推進 3) 紀要の抜本的再編	<p>1) 学長裁量経費を獲得した22年度のアゴラの成果としては、倉敷市との連携事業の立ち上げ、および美作市から産業連関表を作成する受託研究を得たことを挙げうる。23年度は、「グリーンイノベーション環境・経済調和型の持続可能な地方都市形成に関する研究」および「産官学民の地域連携ネットワーク組織「アゴラ」の実践による地域貢献活動」を立ち上げ、前者は学内COEを、後者は学長裁量経費を獲得し、活動を行い研究成果を挙げつつある。24年度プロジェクトとして「産官学民連携のネットワーク組織「アゴラ」を活用した地域貢献とそれを可能にする実践的な教育研究システムの構築」を立ち上げ概算要求を行ったが、採択には至らなかった。</p> <p>2) 平成23年12月に、国際シンポジウムを開催した。協定校訪問として、4月と11月に中国の吉林大学、東北師範大学、12月に韓国の高麗大学、成均館大学、国民大学、2月に台湾大学、非協定校への広報訪問として9月に中国主要大学を訪れ、研究交流の意見交換、授業、小講演などを行った。平成24年3月に主要協定校の図書館13校に、研究科教員の書籍各10冊を寄贈した。平成24年3月に研究科内の学術交流調査を行い、状況の把握に努めた。</p> <p>3) 掲載論文数の増加によって紀要類の頁数が増大したことに対応して、印刷部数の規模を確保するため、「文化共生学研究」「北東アジア経済研究」にダイレクト印刷方式を採用した。「社会文化科学研究科紀要」等紀要類の掲載原稿は、要請に応じて他大学のリポジットに提供し、より多くの閲覧を可能にした。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	
1) AGORAを中心にした地域の官民各界との意見交流の質的充実・促進及び産官学の連携強化 2) 公開講座、公開シンポジウムなどを通じた研究成果の一般への発信	<p>1) 地域貢献の一環として、地域創生ネットワークアゴラに取り組んでいる。今年度は、アゴラin 倉敷、アゴラin西川を開催し、現地に赴き、倉敷市職員、岡山市職員、地域人らと共に、教員、院生が地域活性化について議論した。さらに、2012年3月10日には「震災、その現場に学ぶ ～行政とコミュニティの連携～」を開催し、テーマにつき多角的に議論した。また、岡山県議会からの要請もあり、地域公共政策コースの教員が、県議会に赴き研修セミナーを開催することになり全部で8回のセミナーを予定し、ている。2回まで終了した。</p> <p>2) 平成23年10月に、一般市民を対象に、社会文化科学研究科主催の公開講座を4回開催した。受講生は43名であり、受講後のアンケートによると、概ね好評であった。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
<p>社会文化科学研究科は、文学系、法学系、経済学系からなり、管理運営はなかなかむずかしいところがある。しかし、各学系から出ている副研究科長が、各学系と研究科の関係うまくとりまとめているので、比較的円滑に機能していると考えている。ただし、副研究科長の業務負担が過重になる傾向があり、副研究科長の学部における業務軽減などの改善の必要がある。</p>	